

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001260		
法人名	社会福祉法人若杉会		
事業所名	グループホーム浜の宮		
所在地	福岡県築上郡築上町大字高塚763番地3 (電話) 0930-56-0577		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果確定日	令和5年1月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援に向けて、残された機能を最大限に引き出し低下しないように、ご利用者一人ひとりの能力を観察しながら支援しています。日常生活全般において、時間がかかってもご自分で出来るところは頂くことをモットーに、個々に合わせたケアに取り組んでいます。例えば、排泄面では、各部屋にトイレがあり、尿意のない方でも、昼夜問わず、トイレで排泄できるように支援しています。感性豊かに自分らしく日々を送れることを大切に「ひとりの為に寄り添う」理念に沿って、ご家族と共にご利用者を支えられるよう努めています。毎日のレクリエーション活動や運動・家事動作など、日常生活の中で五感を刺激し、活動の時間を多く持ち、皆で楽しく過ごせる環境を心掛け、ご利用者と共に笑い、悲しみ、感性や体験を共有しながら「喜怒哀楽」の感情を大切にしています。ご利用者から学んだことを生活の中に反映したり、ご家族や地域に発信したり、貢献できるよう行政や地域との関りも積極的に行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年11月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は海の側の自然に囲まれた場所にあり、建物は木造で木の温もりを感じる温かい雰囲気である。2ユニットあり、各ユニットに共有スペースを設けている。24時間換気システムを導入し、全職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいる。身体拘束適正化検討委員会を設置し、定期的に委員会を開催し、「身体拘束をしないケア」を実践している。法人は介護事業を複数運営しており、事業所同士が連携して理念を実践できるよう努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の視点を含んだ事業所独自の運営理念「一人のために寄り添う」がある。ミーティングなどで、管理者と職員は常に理念を意識して行動するように話し合い、念頭に置きながら実践に繋げている。	法人理念のほか、事業所ごとにも理念を作成し、職員休憩室やホール、事務所内に掲示し、常に職員の目に触れるようにしている。毎日のミーティングで理念を唱和したり、研修会で地域理念について話し合う等、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動を行っている。コロナ禍で実施出来ていないが、地域で開催する文化祭の見物等に出かけ、地域交流の機会を設けている。	各ユニットで自治会に加入している。町の広報紙を利用者が閲覧できるようにしている。コロナ禍前は積極的に地域活動や小学校慰問等を行っていた。管理者はコロナ禍で地域との交流が少ないと感じ、月1回、公民館に出向き、町内活動を聞いたり、事業所の状況を報告している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護の相談を受けた時には、説明、アドバイスを行っている。また、地域へパンフレット等を配布し、認知症やグループホームを知っていただくように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、事業所の現状やヒヤリ・ハット、行事等の報告を行う。今後の取り組みについて意見を伺い、取り入れている。話し合った内容の記録は、ボードに添付し、誰でも見る事ができるようにしている。	公民館を利用して運営推進会議を開催している。利用者や家族代表、町福祉課、社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治区会会長、法人内職員が参加し、事業所内の状況報告等を行い、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で行政の方に参加していただいている。協力してもらったり、困りごとがあった際には、役場や地域包括支援センターに相談をしながら、サービスの向上に取り組んでいる。	管理者は月に1度、地域包括支援センターに出向き、事業所の状況を説明し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の学習会は行っている。職員全体で話し合う事も多い。拘束しないケアを実践している。運営推進会議と一緒に、身体拘束適正化検討委員会を行政や自治会の方にも入っていただき、意見交換をしている。	外出傾向のある利用者には職員が必ず付き添っている。全職員に対して研修資料を配布して周知徹底を図る等、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、2ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催し、第三者委員に対して事業所内で行われているケアについて報告している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関する事について学習会を行い、防止に努めている。入居時や日々の生活の中で、身体的に不自然なあざなどがないか、皮下出血が出来た場合は事故報告にあげ、原因を追及するなど、気づきを常に職員間で共有し、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する事や成年後見制度について学習会を実施している。家族会で制度について説明したり、個別にて制度について説明している。	研修計画に組み込んで、年1回権利擁護に関する研修を実施している。研修は全職員が参加し、研修報告書を保管している。利用者や家族に契約時にパンフレットを用いて説明を行っている。また、玄関にパンフレットを設置し、家族等が自由に持ち帰ることができるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、管理者より時間をかけ説明を行っている。また、職員も、ホームの理解として契約書、重要事項説明書の説明を受けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は常にご利用者やご家族の要望等に耳を傾けるようにしている。運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、家族会会長、自治会代表、役場職員、包括支援センター職員、ご利用者などが参加され、意見交換を行っている。	利用者が日常的に意見や思いを職員に伝えられるよう配慮している。コロナ禍のため家族会の開催は中止しているが、意見や問い合わせは電話で受け付け、意見を運営に反映させるように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、業務改善会議を行っている。理事長・管理者・職員が話し合いを持つ場を設けている。議事録は全職員が閲覧出来るようにしている。	管理者は、日頃から職員の意見を聞くよう心がけている。また、事前に職員に意見を聞き、業務改善会議で検討している。利用者の状態に合わせた寝台を提案して導入する等、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にて賞与や昇給がある。また、年度末に個別の自己・他者評価による考課制度がある。年に2回の健康診断や年1回のメンタルヘルスチェックを行い、心身の健康維持を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別や年齢などを理由に採用対象から除外しないようにしている。また、どんな職員に対しても、働きやすい雰囲気作りが出来るように、法人の事業計画にも取り入れている。	定年はあるが、再雇用で継続的に就業することができる。採用にあたっては、性別や資格の有無を理由に対象から排除しないようにしている。キャリアアップ支援は法人がバックアップしており、積極的に資格取得を支援し、職員が能力を発揮できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内で人権の学習会を行い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。現在、外部研修は、新型コロナウイルスの流行により積極的には参加していないが、通常は人権講習会に職員が参加し、後日、ミーティングにて報告をしたり、ホーム内の学習会にて知識を広めている。	年1回、全職員に対して研修資料を配布し、利用者の人権等について理解を深めている。研修記録が残されている。身体拘束適正化検討委員会でも人権について話し合い、議事録を職員に周知している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画の中に、人材育成についての項目があり、日常的に法人内外の研修を取り入れて、スキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの流行により積極的には参加していなかったが、通常は外部研修や法人全体の学習会への参加、在宅ケア研究会への参加や、他事業所合同での勉強会などに参加している。他部署の新型コロナ感染対策にて数名の職員が2週間応援に行く等の交流もある。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は利用に至るまでに、担当のケアマネジャーに話を聞いたり、自宅に伺ったりして、話をゆっくり聞くように努めている。職員間でも、本人の気持ちを汲み取りながら生活歴を大切に、良いケアに繋げるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時には、家族と面談する機会を設けて、話を聞くようにしている。家族の気持ちを汲みながら、関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で本人と面談し、必要な支援を見極め、管理者・計画作成者は担当のケアマネジャーと話をしたり、ご家族と話をし、ご本人に合ったサービスを勧めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけでなく、日常生活において利用者から教えられる事が多い。例えば、梅干しやらっきょうの漬け方、調理での工夫、生活の知恵など。また、ご利用者同士の関係にも配慮し、スタッフが常にパイプ役になるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時には、ご家族にすぐに連絡、相談をするようにしている。新型コロナウイルスの流行により、対面での面会や家族会の開催が出来ない中、窓越しでの面会の際に、状態を伝えたり、面会が遠のいているご家族には電話にて近況を伝えたり、関係性が薄くならないようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの流行により積極的には行っていないが、面会者がみえると、窓越しで携帯電話を使い顔を見ながら会話して頂いている。また、馴染みの場所の回想法を行ったり、人や場所を忘れないように取り組んでいる。	コロナ禍のため、窓越しでの面会を実施している。コロナ禍前は近隣の友人等が面会に来ることもあった。希望に応じて、年賀状や暑中見舞いを職員と一緒に作成し、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係はほぼ把握している。ご利用者同士の関わりの中でトラブルなどが生じた場合は、さりげなく間に入り、良好な関係を保てるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内で施設移動が出来るように、窓口は広げている。ご利用者の状態に応じて法人内で受け入れられる体制は整っており、ご本人やご家族の不安や負担を軽減出来るように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話やレクリエーションを通じて、ご利用者の言葉を引き出しながら、思いの把握を行っている。ご本人が意向を示されない場合は、二者択一で答えやすいように質問したり、行動の中から思いを汲み取るようにしている。	家族から情報収集したり、利用者との日々の会話から職員が聞き取ったことや気になったことを書き留めて、利用者の思いや意向の把握に努め、スタッフ間で共有してサービスに活かしている。会話をする時は、椅子に座ったり、斜め前に立って目線を合わせて話すよう配慮している。状況に応じて、二者択一で返事のしやすいような質問をすることを心がけている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や入所後の生活について記録を残し、スタッフや家族が情報を共有できるように努めている。ご本人やご家族との関わりの中で、生活歴等の情報の収集、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事、睡眠、排泄、バイタル等を総合記録シートに記録し、全職員が目を通し、心身の状態や現在の状況を把握している。生活リハビリを取り入れ、残存機能の活用に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングは、本人の毎日の生活から出る言葉を大切にしながらニーズの把握に努め、ご家族及び職員の意見を反映し、作成している。作成後は、全職員が把握できるようにしている。	家族や担当スタッフ、医師等の意見を聴きながら介護計画を作成している。3～6ヶ月に1回、介護計画の見直しが行われ、状況に応じて随時、見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートや申し送りノートに、気づきやミーティングで話し合った内容などを記入し、介護計画につなげるように努めている。就業前に必ず目を通している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに主治医がおり、病院との連携体制を活かして、そのご利用者にとって受診が負担となる場合は、訪問診療や住診をしていただいている。訪問歯科や地域の美容室の利用など、その時々でニーズへの対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、民生委員、ボランティア、公的機関と協力して、安全でより豊かな生活が送れるように、連携をとっている。隣接している公民館の活用、保育園、小・中学校、消防署、文化施設との交流が図れるように取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医が主治医となることを原則としている。ご家族が受診に連れて行く際には、ご本人の最近のバイタルや心身の状況などを記録した受診用状態報告書を持っていていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、往診を行っていない病院に関しては、職員が通院に付き添い、通院記録に残して情報を職員間で共有し、家族には受診内容等を報告している。総合病院等は職員が情報提供を行い、家族が通院を支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、常勤の看護師がいない為、訪問看護などを利用している。訪問看護では、事前に電話で状況を報告し、円滑に看護が受けられるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご本人に関する介護要約を作成し、可能な限り情報の提供を行っている。必要時には、ご家族への病状説明、治療方針説明、退院計画の説明などに参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する明確な方針があり、家族や医療などとの連携を図りながら支援している。重度化した場合には、同一法人の特養が対応可能な体制も選択できるようになっている。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に説明している。また、状態変化に応じて随時話し合い、可能な限り、家族の意向に沿って行うように方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力を仰ぎながら、急変時の対応のマニュアルを基に学習会を行っている。ヒヤリハットや事故報告は各職員が自主的に出し、それを全職員が話し合い事故防止に努めている。消防署と連携し、救急の対応や火災訓練を行っている。行方不明時用に捜索用のマニュアルなど作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方に避難訓練の参加を呼びかけ、協力いただいている。ハザードマップやマニュアルを保管し、学習会を行っている。もし、災害が起こった時には近隣の公民館へ避難するようにしている。消火器、避難経路、非常食の確認、確保をしている。	年2回、避難訓練を行い、うち1回は消防署立会いで行っている。避難訓練を実施する際は、地域住民に呼びかけを行っている。火災・台風・水害・Jアラートのマニュアルが整備されている。緊急時の備品は事業所内に水や食料が3日分準備されている。おむつやカセットコンロ等の備品も準備されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護についての学習会を行い、全職員に周知するようにしている。職員はプライバシーを損ねるような声掛けや、対応をしないように心掛けている。個人の時間を大切にしており、居室は個室で、個室内にトイレを設置している。	プライバシーの確保等についての内部研修を行っている。職員間で話し合い、利用者の前で、他の利用者の話をしないように心がけている。やむを得ない時は、紙に書いたり、部屋番号で他者に分からないようにする等、プライバシーに配慮した対応に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話や声掛けにより、言葉を引き出す様に心掛けて、思いや希望を引き出すようにしている。また、選択できる言葉かけを心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その日その時の体調や気分を考慮し対応をしている。自由に過ごせたり、一人で過ごす時間も大切にしよう心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	町内の理容室に2カ月に1回ぐらいの割合でホームに来て頂き、希望の髪形を伝え、カットしてもらっている。感染対策で現在は外出していないが、コロナ禍前までは、ご家族と一緒に今まで行っていた美容室や理容院に行く事もあった。その方が好む身だしなみを把握し、その人らしさを大切にしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、料理の下ごしらえのお手伝いや下膳をしていただいている。レクリエーションでおやつ作りを皆で行う機会を設けている。食事が楽しい場になるように、スタッフが雰囲気作りをしている。	利用者の希望のメニューを取り入れ、旬の食材を使い、季節感が味わえる手作りの食事となっている。2～3か月に1回、お好み焼きやたこ焼き、ホットケーキ等を利用者と一緒につけている。また、できる範囲で利用者に食事の準備や後片付けをしてもらう等、食事を楽しむことができるよう支援している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好や摂取量を把握するように努めている。自分で食べられるように工夫をしている。水分・食事摂取量が少ない方は、栄養ゼリーや牛乳アイスクリームなどで補っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアを行っている。うがいなどが困難な方は、歯磨きティッシュで行う事もある。必要な方は訪問歯科を依頼し、口腔環境を整えるようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合シートの排泄チェックにて排泄パターンを把握して誘導し、失禁や尿漏れなどを防ぎ、おむつの使用を減らすように心掛けている。夜間でもなるべくトイレに行くように誘導している。尿意・便意のある方は、寝たきり度の高い方でもトイレ排泄出来る様に誘導している。	排泄表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。表情やしぐさのサインをスタッフ間で共有し、さりげなく自室のトイレに誘導し、自立に向けた支援を行っている。入居時はリハビリパンツだった利用者が、トイレ誘導することで、パッドの使用がなくなって失禁しなくなった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分補給と運動を心がけている。食事は繊維質のものを多く取り入れて、起床時には牛乳を提供している。夏場は、スイカなど水分の多い果物などをおやつに出している。それでも便秘が続くようであれば、主治医に相談し、下剤にて排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の個々の状態に合わせた入浴を心がけている。家族や本人の希望を聞き、個々に添った入浴を支援している。家庭用ユニットバスなので、家庭的な雰囲気をつくりゆったりと入浴して頂くように心掛けている。	週2～3回を基本に行っているが、毎日準備しており、希望に応じて入浴可能である。入浴を望まない利用者には、声かけのスタッフを変えたり、日を改める等、無理強いせずに入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼寝をするように支援をしている。夜間眠れないご利用者に対し、ご家族と相談し専門医に受診して頂く他、日中の活動量を増やすように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際は、状態報告書を作成し、前回受診からの状態を主治医あてに文書にして持参してもらっている。帰ってきた際に、薬や薬剤情報を確認し、把握するように努めている。薬剤が変更になった際は、記録に残しておく為スタッフ全員が情報を共有できる。症状の変化については、記録に残すようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の下ごしらえなど、日々の中で出来ることを見出し、活気のある日常を送っていただくように努めている。レクリエーションでも人気のある歌や体操など積極的に行うようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になってからは積極的には行っていないが、以前は事業所周辺の散歩や買物の支援をしている。希望に合わせて、その時々で対応している。バスハイクなどを行うこともある。	本人の希望や天候に応じて、近隣の散歩を行っている。コロナ禍のため、車を使用する等の外出支援は控えている。以前は2ヶ月に1回程度の外食支援や買い物、ドライブ等を行っていた。感染状況をみながら、今後の外出支援を検討している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などに行く際は、本人にお金を渡し、買物が出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいと言えば掛けています。ご家族へ電話で話していただいたり、手紙を出していただけるよう、協力をお願いしている。個人で携帯電話を持ち込まれ、好きな時に電話をする事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋、天窓があり室内は明るい造りになっている。24時間換気システムもあり、年中過ごしやすい空間になっている。外には、季節の花が見られるようにしている。	共用スペースは吹き抜けの天井で排煙機能が備わっており、自然光が差し込み、開放感のある空間となっている。また、利用者がゆったり座って過ごせるように椅子を置く等、配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人の場所であり、プライベートの場所として利用し、ホールやリビングでは気の合った方同士が思い思いにすごすようにしている。ご利用者同士の関係性を把握出来ている為、席の配慮は常に行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風モダンのゆったりとした個室になっており、以前自宅で使用されていたタンスや布団、時計などを置かれて、ご本人が居心地良く過ごせるようになっている。	居室は、馴染みのある家具や利用者の思い出の物が持ち込まれ、家族の写真が飾られる等、一人ひとり個性のある室内で、居心地良く過ごせるように工夫されている。食器等も使っていた物を持ち込むこともでき、家庭に近い環境に近づけるように配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りがついており、歩行が不安な方は利用している。各居室にトイレがあり、すぐに、自由に行けるようになっている。ご自分で出来る事を基本にご家族に相談しながら、自助具の購入なども行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
			○	③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
			○	③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で自分らしい暮らしができるように、ホーム目標として、「常に笑顔で・家族と共に・地域の中へ」を掲げ、事業所理念「ひとりの為に寄り添う」を意識しながら、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動などの参加をしている。本来ならば、近隣の散歩や文化祭・お祭りなどの見学など地域の行事に参加するのですが、現在、新型コロナウイルス感染対策の為、積極的な交流は控えている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や入居相談の際に、介護や困りごとなどの相談を受けた時には、説明やアドバイスをを行っている。また、社会福祉協議会へグループホームを知っていただくようパンフレットを設置している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、事業所の現状（サービスの実際）や取り組み、外部評価や実地指導などの結果・事故などの報告を行い、アドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。新型コロナウイルス感染対策についても話し合っている。新型コロナウイルス感染症の状況に応じては、書面で意見を伺うこともあった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で町の役場の福祉課・地域包括支援センター、築上町社会福祉協議会の方々に参加して頂き、協力関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会の他に、常日頃から、どんな事が身体拘束に当たるのかケアの振り返りからミーティング等で話し合っており、拘束をしないケアの実践に努めている。2ヶ月に1回身体拘束適正化検討委員会にて有識者、ご家族の見解、意見、第三者から見てのホームの対応について意見を頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する事について学習会を行い、日々のミーティングの中でも振り返りとして、どんなことが虐待に相当するの話し合い、職員一人ひとりが虐待防止に対する意識が高まるようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて地域包括支援センター等の協力を得て対応している。全職員が理解・把握できるよう学習会を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は管理者より時間をかけ説明を行い、理解、納得を得た上で手続きを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・家族共、常に意見や要望を聞くように努めている。また、気軽に話していただく事ができるよう配慮している。意見や要望については、運営推進会議の中で反映されるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回業務会議を行っている。、理事長、管理者、職員で話し合う場を設けており、現場の状況を伝えながら意見・提案を話し合い、反映に努めている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場・職員の状況を把握しながら、各自が向上心をもって働けるよう環境・条件の整備に努めている。年に1回、考課制度がある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢層が幅広く、個々の能力・キャリアを活かし、発揮できるよう努めている。新人スタッフにおいては、不安を感じることなく、疑問や問題点等すぐ解決できるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内での学習会の実施。常日頃から、ご利用者の人権・その人らしさを大切にする支援に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験のない職員については、ゆっくり時間をかけ、わからない事・出来ない事が不安や負担にならないよう実践や話し合う場を設け解決できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、同業者との交流は控えている。新型コロナウイルス感染症対策前は、法人合同での学習会や地域ケア交流会などの参加を行っていた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入にあたって、不安・思い要望などゆっくりと聞き安心に繋がるよう努めている。ケアの中でも継続し、職員間がその思いを共有し関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には、面談の機械を設けて話を聞くようにしている。家族の要望等については、反映できることは反映するよう努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と面談し、必要な支援を見極め、ご本人にあったケアに繋げていけるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない・出来なくなってしまったという事に視点をあらず、コミュニケーションの中で発する言葉や自立を大切に、個性や力が発揮できるよう共に過ごし支え合う関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会も制限されている中、ご家族とは電話や手紙等において、ご利用者の現状を伝え、理解していただきながら共に支えている関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの関係が継続できるよう支援している。ドライブの機会を設け、馴染みのある場所へ出かけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係は、ほぼ把握しており、トラブルが生じた際は職員がさりげなく間に入り、話題作りをしたり、孤立することのないよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談を受けたり、関係を継続している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や何気なく発した言葉・思いから、希望や意向の把握に努めている。困難な時は、話し合いの中で意見を出し合い検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴・ご家族からの情報、ご本人からの話しの中で暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方・生活のリズム・心身の状態等、記録に残し全職員が把握できるようにしている。残存機能の活用に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づき、観察事項は記録シートに残し、モニタリングを行い介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践等記録シートに記入し、またミーティングの中でも話し合い情報を共有しながら、介護計画に活かしていくよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに合わせて話し合いを行い、ご家族に相談しながら解決できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策にて地域資源との協働ができていく状況ではあるが、2か月に1度、地元美容院訪問で散髪を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医が主治医となり、継続した医療が受けられるように支援している。状態に応じて往診をしていただいている。受診に行く際には、状態報告書を持参し、確実な情報が医師に伝わるように支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態や変化時には、報告や相談を行っており、スムーズに医療支援に繋げていくように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、医師・家族が連携して治療を受けやすいように協力している。入院期間中は、病院関係者と密に情報交換を行い早期に退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期・重度化について家族に説明し、理解していただいている。本人・家族の意向を確認しながら対応しており、法人内にも特養があり選択肢を広げたり、主治医と連携を図り、それぞれの分野で出来る支援を分担しながら取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会を行い、実践できるよう努めている。また、事故報告書、ヒヤリ・ハットから話し合いを重ね、演習を行ったりして実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時を含めた避難訓練を定期的に実施している。消火器の設置・非常食・備品の設置場所も全職員が把握できるようにしており、法人内や地域との協力・連携も行っている。避難する場合、自治会や役場に連絡を行い、必要に応じて避難の協力を依頼したり、ご利用者の安否確認など連携を図っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から、プライバシーに配慮しながらケアを行っている。個々の生活歴や性格を共有・把握し、その方にあった声掛け・対応等を心掛けている。女性のご利用者に対しては、入浴は女性職員が行うなど配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が躊躇することなく思いや希望を表現できるよう雰囲気作りに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れはあるが、無理に当てはまるのではなく、体調や気持ちを大切にしながら柔軟に対応するようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服装、お化粧品等、身だしなみやおしゃれを本人の好みに合わせて継続できるように支援している。例えば、毎日着用する衣服についても、本人が選択できるような支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で食事が楽しみでもあり、好きなもの、食べたいものなど聞きながら、取り入れるようにしている。お茶を入れていただいたり、おやつ作りをしたり出来る範囲で一緒に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録に残し把握している。時間を決めて定期的に、お茶やコーヒー、ジュースなどをお出しし、確実に水分が摂れるように支援している。水分の摂取量が少ない方は調理担当者を含め、食事形態や嗜好品の検討を行いながら取り組んでいる。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。特に就寝時には義歯の確認、洗浄などの手入れなど支援している。訪問歯科診療を個別に受けており、医師との情報交換、医師からのアドバイスを受けて実践している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムや行動を把握し、個々のサイクルに合わせたトイレ誘導等の支援を行っている。安易にオムツ使用にせず、尿意のない方でも定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に乳製品、水分補給等の摂取や体操を取り入れ身体を動かすようにし便秘予防に取り組んでいる。個々の病歴を把握し必要に応じて医師と連携を図り務めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2~3回入浴ができるように支援している。個々に声掛けを行いながら、ご本人の希望を聞きながら入浴していただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や睡眠状況に応じて、休息していただいている。日中、活動的に過ごせるよう支援しながら、安眠に心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・作用・副作用又は服用量について薬剤情報ですぐ確認できるようにしている。飲み忘れ・誤薬を防ぐために、職員2名で確認するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来ることや得意なことを活かし支援している。誕生会などホーム内での行事を設けたり、行事食など、楽しみが持てるように工夫している。少しでも気分転換ができるよう個別でドライブに行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うように外出できない状況ではあるが、思いを聴きながら個別にドライブに行ったりしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいもの、必要なものがあれば、その都度、預り金の中より購入している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聴きながら葉書を出したり、ご家族に電話をしたり、個別に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくよう季節の花を飾ったり、環境整備に工夫をしている。時には音楽を流しながらゆったり過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、一人の時間を大切にしており、邪魔しないよう配慮している。職員の動きにも注意している。気の合った方が士が会話を楽しんだり、一緒にテレビを観たりという時間を大切にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた時計・鏡・布団等置かれており、使い慣れたものでもあり安心感がある。ご本人が安心して過ごしやすいよう配慮している。各自、ご自分の好きなように小物を飾ったり、個性的な部屋になっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	話し合いの中で、今の状態について職員同士共有しながら、一人ひとりの能力に合わせたケアを心掛けている。共有スペースや廊下には unnecessary なものを置かず、安全面にも配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		